

第一回 大船渡市民会議 抄録

日 時： 昭和45年2月7日 13時15分開会
会 場： 農協大船渡支所ホール
主 催： 大船渡青年会議所

パネラー：

大船渡市助役	大和田 肇
〃 教育長	渡辺 ひろし
大船渡商工会議所会頭	鳥沢 雷治
〃 副会頭	佐々木軍四郎
〃 副会頭	甘竹 久
〃 副会頭	志田 武之助
大船渡市開発促進協議会幹事長	三条 訣
大船渡市議会議長	佐々木亀三郎
大船渡警察署長	千葉 忠
岩手県議会副議長	鈴木 八五平

総合司会：

大船渡青年会議所専務理事 宮沢 信平

議長団：

LD委員会委員長	林 陽三
〃 副委員長	菅原 康民
〃 委員	石川 純司

主催者挨拶： 大船渡青年会議所理事長 菅野 佑三

本日の市民会議に市民の皆様方多数の御出席を得、またパネラーの諸先生、諸先輩におかれましても、我々青年会議所の活動を御理解され、貴重な御時間をさかれて、御出席下さいましたことについて、会員を代表し、厚く御礼申し上げます。

本日の市民会議を主催する青年会議所とはいったいどのような団体、組織であるかについて御説明申し上げます。その目的は大まかに分けて二つあります。一つは地域社会の発展に微力ながらも貢献していこうということ。とにかく20歳から40歳までの若人が地域のためにという旗印のもとに結集して、情熱と勇気と英知を傾けていこうということです。もう一つは未熟で、経験不足な若者の集まりでありますので、国際的な組織である青年会議所という場を借りて、おたがいの練磨、トレーニングをはかり個々の事業なり、仕事なりを繁栄、発展させていこうということです。従って本日の市民会議もその目的に沿って企画したものの一つといえると思います。しかし本日はテーマの間口の割り合いには短時間でございますので、結論的なものは得られないかもしれませんが、この激動の70年代に大船渡市の経済、教育、交通問題などをどのように変革していくか、またどのよ

うに対処していくか、一つの目安なり、方向づけが得られれば、幸いだと思います。そしてこの日の会議の中で得た方向づけを一つの糧として、激動の70年代に、市民の皆様と手を携えてチャレンジし、明るく豊かな大船渡、愛される郷土にいたすべく微力を尽していきたいというのが我々会員の願いです。

今後とも青年会議所活動にはより一層の御理解と御指導、御鞭撻を賜りますようお願い致します。

70年の本市の経済展望

レポーター： 大船渡青年会議所経済委員会 及川 誠

激動する70年代を迎え、大船渡市の経済開発はいま大きな変化と革新に迫られております。

特に今日の産業開発は急速な技術革新と複雑、多様、スピード化時代に直面しており、これらに対処するには新しい頭の切替と大いなる行動力とが必要とされております。こうした新しい時代を迎え、とくに革新の担い手でヤングパワー、即ち我々青年の役割は大きいと思います。

そこでこうした時代を背景に今後本市の経済構造はどの様に発展していくのかを考えてみました。当大船渡市は昭和27年4月発足以来、18年、諸先輩、諸機関の長年の甚大なる努力が実り、今日の臨海工業都市としての暁を迎えました。本市に於ける昭和40年を基準とした就業人口での産業構造は農、漁業などの第一特産業28.6%、工業、建設業など第二次産業31%、また第三次産業といわれる商業、サービス業は40%と都市形態を整えつつあります。日産農林、その他の合板工場、木工団地等の建設で更にその傾向が強くなりつつあります。また、その生産所得の伸び率も昭35年を100とすると40年ではその187%、金額において92億3千万円と大幅な伸びを示しています。

しかしながら大船渡市の経済はこの様に第一次産業であるところの漁業等に依存する度合が大きく天災被害等に依って経済力が支配されているのが現状であります。天災的な災害、台風、好漁、不漁等に影響されない漁業の開発こそが70年代の大船渡市をささえる大きな要素となることと信ずるものであります。こうした事からもとくに企業の集団化が強力に押し進められなければなりません。現に水産業、製造業等では共同化から更にふみこえた協業化へとその組織力を強め、生産体制も一次加工から二次加工、三次加工へと推移して来ています。

この様に各産業に於ける企業経営はいまこそ革新されなければなりません。即ち設備の近代化、合理化、技術水準と品質の向上及び専門化、新製品の開発と研究開発体制の確立、労働力不足と労働力の確保及び省力化。次ぎに資金調達力の強化、更にヤングパワーの台頭と管理者の新しいリーダーシップが要求されております。

こうした事情と三陸縦貫鉄道の開通など交通運輸体系の整備と高速化が完成されたならば”期待”のある明るい未来が約束されると思います。即ち三陸縦貫鉄道の開通・国道45号線の全面改良舗装工事の完成、また、東北新幹線、東北縦貫高速道の開通に依るスピード化、更には大船渡から内陸都市水沢を結ぶ大船渡鉄道の実現を図り、陸前高田、大船渡、釜石、山田、大槌等のいわゆる沿岸経済圏と内陸諸都市の経済圏を接続させ、経済圏の拡大を図ることが肝要です。内陸部の最短距離である水沢ではすでに市当局が中心となり、2万名の署名をとりまとめさらに住田町でも5千人の署名を取りまとめ、来春早々には江刺市などと期成同盟会を結成し国会への陳情を行うと聞きますが、いずれ将来は鉄道と道路を立体化し、下が鉄道その上は高速道路と架設し、東北新幹線、東北高速道に結びたいものです。

本市に於ける今後10年後の人口は約8万人と現在の約2倍、これはコンピューターのはじきだした数字だそうですが、将来は三陸町、住田町そして陸前高田市と合併し、旧気仙郡一丸となって本市をこの経済圏のセンターとし、一大臨海工業都市、三陸第一の漁港都市、そして一大観光都市として発展させたいものです。

司会 大和田助役さんにお伺いしますが、大船渡市が第一次産業、特に漁業に依存度が強いことについて、今後どのように施策を進めますか。

大和田 水産の部門とくに漁獲、つまり獲る漁業は乱獲がたたって資源の不足をきたしております。従って太平洋を一つの畑とし、ここにいかに資源を育て、計画的に獲っていくかが今後の課題となるでしょう。大船渡の場合はノリ、ワカメ、ホタテなど耕す漁業が盛んになってきており、この面を育てていきたいと思えます。ただ公害や災害などがつきまとい将来も安定した経営というのはなかなか容易ではありません。獲る方はとにかく計画的にもっていく以外はないでしょうね。

鳥沢 まさに助役さんの言う通り乱獲そのものです。大体、世界の漁業が斜陽化しているというのは漁船が多すぎる点に起因しています。いまの時期はスケソウダラが主ですが、総漁獲高 900 万トンのうち、スケソウだけで 100 万トンを占めている。これを何年も続けてご覧なさい。養殖は大船渡の総水揚げ 40 億円に対し、3~4 億円で、いまのところたいした数字ではないが、これからは公害等もあって、やりづらくなるでしょうね。

鈴木 水産庁では耕す漁業のニューフェースとしてサケ養殖の企業化に新しい予算を盛りました。県でもこれに積極的に取り組むところです。これなど太平洋の新しい開拓という点で、大いに注目してもいいと思えますね。木工団地の進出などによる公害の心配が取り沙汰されていますが、昨年のカキ、ホタテのへい死騒ぎはこれとは関係がないようです。しかしこれはあくまでも原因を究明しなければなりません。県でも汚染防止対策費として 1300 万円を計上しています。防波堤が元凶だという説もありますが、これらや、その他とひっくるめて、徹底的に究明する一方、大船渡湾を不特定多数による水質汚染港に指定、汚染の原因となるものを規制していく考えです。

司会 中央資本や大企業の進出によって、中小企業からも労働力が吸収され、労働力不足をきたすようになってきましたが、なにせ相手は高賃金だけに一般は太刀打ちできず、心配する向きも少ないようですが、どうすればバランスがとれるとお思いですか。

志田 70 年代の賃金問題は物価の安定等から考えていかなければならないでしょう。賃金が上がれば、物価も上るといふ悪循環がこのところずっと続いています。確かに日本の賃金も世界の水準に近づいてきているようです。たとえば 1960 年において、米国の 13%、英国の 34%、西独の 46% だった比率が 1968 年には前記の順に 29、61、63%と米国にはまだまだですが、英国、西独には肉迫しております。これと同時に物価もあがり、政府の見方だと今年の消費者物価は 45%の上昇が見込まれているようです。しかし賃金はこれからもグングン上るでしょうから、労働力確保もまず生産性をあげて、高賃金を支払えるだけの態勢を固めることがまっ先に問われるでしょう。そうでなければ経営が成り立たない。

佐々木（軍） 巨大な福祉時代に入ったいま、時代から地域社会は逃げられない。しかし、地域社会がそれに対応できる状況にあるかどうか、ガデパートの進出等、資本も巨大化しており、もはや状況の有無という前に、それに対応できるような状況づくりが早急に必要でしょう。

佐々木（亀） 人口 4 万の市では県や中央に対する折衝でも何とんでも力が弱い。やはり 8 万都市ぐらいにもっていかねばならないと思う。それが現状では無理だといって傍観に付してばかりはいられない。議会としても広域都市づくりに前向きであたらねばと思っています。本年にでも一部合併の声もあるが、それはともかく必要な状況づくりのためにも強くこの実現に邁

進しなければならん時でしょう。

司会 マボロシの鉄道、大船渡—水沢線の期成運動が盛り上っていますが、これが実現すれば県南の経済圏は大きく変ると思いますが…。

三条 私個人としてはこの鉄道には賛成していません。むしろ道路の整備の方が先決でしょう。今後、交通網が整備された際この2つの経済が水沢を吸収するか、逆に吸収されるかそれは青年会議所の皆さんのあり方にも大きくかかってくるでしょう（笑）。これからの大船渡市の作り方にしても、たとえば大船渡港一つとってみても大船渡市の大船渡湾にするか、あるいは岩手県の大船渡港にするか、そうした大局的な見方が必要だと思います。同様に、湾内漁業の維持が漁民にとって将来も幸せなのか、それとも転換した方がいいのか、現在にだけこだわらず、もっと気楽に考えていった方がいいのでは。

司会 何分にもテーマが大きすぎて、結論は出せそうもありませんが、いままでの話に関連してを会場の皆様からも誰か一つ。

A（男性） 水産業の話が出たのに水揚げ面ばかりに捉えて、市場を通して水揚げされたものの処理する企業についての話が出てこないのは、水産業経済の35%を占めているこの業界の関係者の一人として残念です。水産業の将来を伺いたい。また県では第二次産業としての水産加工研究センターをどういう立ち場で援助してくれるか。さらに既存の企業の労働力を新しい大型企業が吸収するのは正しい姿かどうか、なるほど生産性をあげてカバーできる面もあるが、現実には難しい点が多すぎるこれらにいったいどうして対処していけばいいか。

大和田 私も各地の水産加工団地を視察したが、いずれも相当効果をあげているようです。市でも公害のない加工団地の造成を考えていますが、ただ、相当の面積を必要とするようです。がとにかく実現に努力、大船渡製品の名を広めたい。

鈴木 当市の水揚げは昨年33億円を突破、将来は気仙沼をしのぐ時代がくるのも夢ではなさそうです。水産加工センターは八戸にもありますが、ここでは企業と直結する研究をしていて、今日の八戸の基をなす一因となったといわれております。当市にも県と市がタイアップして設置する一方、零細加工業者などの団地化、協業化を図りたい。これには制度金融など高度に利用すればいいわけです。

鳥沢 労働力の確保のために賃金で釣る方法は感心しないが、私の所では、理屈抜きで、賃金は高くしなければならぬと思っています。その分生産性の向上、企業の合理化、人間の能力の開発で補えばいいわけで、私は一人の人間に31%の能力があったら、62%まで開発できると思っています。企業人による企業努力が労働問題にも必要だと思いますね。

司会 飼料工場の進出が噂されてますが甘竹さんにその見通しなどを。

甘竹 畜産も耕す農業ですから、肥料ならぬ飼料が要ります。今度、立根町に一日で20万羽の初生ヒナをかえす工場を6月完成を運びに作っていますが、それには相当の配分飼料が必要なわけで、現地に飼料工場を作ろうという話が持ち上り、現在九分通り実現の見込みです。そうなるとエサもヒナも地元で供給できるわけで、契約生産によって、東京の会社に送り出すという仕組みです。

本市の交通諸問題について

レポーター： 大船渡青年会議所社会開発委員会 今野昭彦

当委員会では交通問題を取りあげてみました。

ここで私が申上げるまでもなく皆様周知の通り最近のテレビ、ラジオ新聞等のニュースをみましても一日として交通事故の報道のない日はありません。慣れるということは恐しいもので最近では交通事故のニュースをみても身近かに起きた事故またはとんでもない大きな事故でもない限り聞き流してしまうのが現状です。

こういう状態が昂じていきますとやがては交通事故のニュースののらないテレビや新聞はサビぬきのスシに等しくなるのではないのでしょうか。まったく背スジの凍る思いがします。ここで参考までにある警察署管内の事故の実例をあげてみましょう。昭和44年1月から10月初旬迄約9ヶ月間に発生した事故の死者は33人で、そのうち子供が11人もあったそうです。実に3人に1人の割合です。このうちの3人に1人は7歳以下の子供という事です。この11件の子供の死亡事故を分析してみますといくつかの特徴があらわれています。

5人が道路に飛び出して車の下敷きになり、9人がトラックの犠牲に6人が裏通りで事故にあっています。また11人のうちで7人が午後3時から5時の間となっています。これは裏通りが狭く安全な遊び場がないうえ、現在の道路事情は裏通りまで危険地帯に変えてしまったためと思われます。また母親の買い物や夕食の仕度の時間帯に子供の死亡事故が多く発生しています。だからといって子供達に家から出るなとは言えません。

子供の事故防止のただ一つの道は遊び場を造って与え、交通道德を認識させ、自分を守るのは誰でもなく自分自身であるという事を教えこむ事ではないのでしょうか。

当大船渡市におきましては近い将来国道45号線等が全面開通される見込みですが、その暁には車は制限速度いっぱいでも通行することでしょう。また盛、大船渡の表通りはすでに全面駐車禁止が実施されております。これにより従来子供の遊び場となっていた裏通りがいきおい駐車場と化すと思えます。

いままで申し上げた実例、実状を考えあわせてみますと交通道德の浸透はもちろんの事ですが関係機関におかれましては横断設備遊び場等の設置、また交通指導、規制技術、取締まりの強化をはかっていただき、それにより運転者、歩行者ともモラル向上をはかる以外交通事故を防ぐ方法はないと思えます。

司会 従来事故は運転者の側からばかり捉えられてきましたが、今後は歩行者教育というものも必要になってきたようですね。ところで市には具体的な公営駐車場建設の計画はあるのですか。

大和田 残念ながらいまのところはありません。大船渡町の駐車禁止ももう半年待つてほしいと陳情しましたが、結局はダメになりました。しかし設備ができてから駐車禁止にした方がいいか、駐車禁止にして設備を急がせたらよいか一概には言えません。これまでの都市計画が駐車場を置き去りにしてきてしまったことは責められても仕方のないことです。とにかくいまのところ、オウサーには車庫を持ってもらうことが先決で、市でもできれば町単位に共同駐車場を作りたいと思っています。幸い起債も認めるというので検討中です。

佐々木(亀) 公営駐車場については議会でも一早く取り上げ、東北議長会でも採択されましたが、まだ地点は決まっていません、しかし国も援助してくれるというので心強く思っています。大船渡町では須崎川にフタをして、駐車場にする案もありますが、財政的にどうなりますか。

司会 交通安全思想の高揚について署長さん何か。

千葉 昨年は死亡事故のうち3分の1は歩行者と車の衝突となっております。歩行者の安全を考える場合、歩行者の交通指導、ルールの順守という点も強化しなければならないと思っております。一万、街頭ではできるだけ交通渋滞やラッシュを緩和、事故の起きやすい状態の解消に意を注いでおりますが、何分にも警察力にも限界がありますので、交通指導員制度などにも頼っているわけです。とにかく悪質なルール違反はビシビシ取締る考えです。

司会 児童、生徒の安全教育は学校でどの程度取り扱われておりますか。

渡辺 児童、生徒の事故が絶えないのはまったく残念です。一昨年文部省から県教委の手を通じて、日常の教科に安全教育を採り入れてほしいという通達があり、交通安全、人命尊重を建て前に徹底、普及させるようにしています。また安全週間中などはいろいろと実技指導しております。昨年は第一中が安全教育指定校になりましたが、交通だけでなく、その他の事故も合わせて、半減しており、安全教育の重要性を痛感している次第です。

司会 県ではどのような安全施設を考えていますか。

鈴木 県ではいま県庁前に公営駐車場を作る段取りで、卒先垂範というところですが、市町村に対しても起債、補助などが逐次認められることになっており、県独自でも安全事業として、特別予算を組んでいます。当市分もかなりついているので、徐々に実現するでしょう。

司会 市の児童公園設置計画はどうなっているのでしょうか。

大和田 昨年3ヶ所、昭和45年度にも3ヶ所設置の計画です。しかしせっかく作っても次々と施設がこわされたりするのは困りものです。やはりなんといっても空地が少ないというのが悩みの種です。今後学校の校庭の開放なども検討したいと思います。

司会 会場の皆さんから御意見を。

B(男性) 児童公園は山の手だけにしか作られていないが、むしろ繁華街に必要ではないか、助役さんにその理由を聞きたい。

大和田 まったく御指摘の通りです。四十号線に沿った児童公園の計画もあったが、いずれも他の用地に化けてしまった。確かに繁華街にこそ公園が必要だと思います。空地の取得が難しい点もありますが努力したいと思います。

C(男性) 交通安全協会の交通白書によると、事故の原因は圧倒的にドライバーの不注意によるものが多い。歩行者の教育もさることながら、やはりドライバーの教育というのにもっともっと比重をかけるべきではないか。

千葉 仰せの通りです。

C(男性) ドライバー教育にあたっては能力、知能テストなど科学的に調査してほしいと思う。

D (女性) 車の整備と併行して心の整備も必要ですが、身の回りを考えた場合、酔っ払い天国とでも申しましょうか一般に酒の上での不始末は寛大にみる傾向があるのではないのでしょうか。日本人の習慣として喜びにつけ、悲しみにつけ酒が使われる、しかしこれからは新しい接待の仕方を考えなければならないと思います。事故にあった場合のみじめさを啓発映画などを通して各部落の末端まで浸透させ事故のおそろしさを一人一人の意識の中に訴えていくべきだと思います。

渡辺 まったくその通りです。何事につけ酒を飲むのは日本の封建時代の名残りで、この悪習は改めなければならないと思っております。啓発映画もどんどん活用したい所存です。

青少年問題

レポーター：大船渡青年会議所青少年問題委員会 鈴木 嘉富

日本の経済はすばらしい成長を続けておると言われてますがその中で岩手県は必ずしもその恩恵に与っておらない点も有ると思います。

現に県内でも過疎現象が起こり、急激に成長する日本経済について行けない市町村も多く見られます。

だが幸い、当大船渡市は市当局始め、先輩各位のご努力により、経済面では県内でも注目される迄に成長致しました事には深く敬意を表します。

しかしこの経済成長の影にかくれた大事な問題が有るのではないのでしょうか。皆様方も関心がお有りの事と存じますが、青少年に寄せる期待は大きくなりつつありますが、最近における経済、社会の急速かつ複雑な変貌は青少年の健全育成をめぐる諸問題の増加を招きましてその根本的解決は緊急を要する課題となっております。

この例は適当ではないかもしれませんが、日本の国を「人体」経済問題を「結核」青少年問題を「ガン」と仮定しますなら、終戦と言う体質改善の大手術を終えた日本と言う人体に生命にかかわる「結核」と「ガン」と言う二つの病魔が住みついております。

今では結核には特効薬が出来まして、気をつければ防げる病気です。だがもう一つの「ガン」はその病原菌さえ見つからず、治療方法も早期発見だけです。

この様に生命にかかわる「ガン」すなわち青少年問題を行政当局も経済問題ほどには力を入れて居らないのが現状ではないのでしょうか。この「ガン」の対策に早期発見が大切なら青少年問題に大切なのは人間性の疎外から守ることで、すなわち情操を養い、教養を高めることでそれにはスポーツとサークル作りとその育成が大切です。

今年度の国家予算で梯磐青年の家について「岩手山ろく」に青年の家が建設になる様ですが、青少年にとっては大変よろこばしい事だと思います。

しかしながら勤労青少年達が本当にのぞんでおるのは勤務を終わって気軽にスポーツを楽しみまたグループ活動をする施設です。だが残念ながら当市には質、量ともにまだまだ不十分ですので市当局は青少年問題の健全育成に果たす施設の効用を重視されまして、早急にこれらの施設を充実されます事をお願い致します。

また経済成長は個人の所得を増した反面、経済的な消費生活第一主義と言う社会風潮を作りました。この金銭第一主義の風潮は一部青少年を異常な迄に金銭の「とりこ」にし、自分の「みえ」の為、わずかな金の為、人を殺傷すると言う事件が毎日の様にニュースで知らされます。

先日の県警白書にも青少年の非行の高齢化、悪質化の傾向は都市化現象が進むにつれて一層多くなると指摘しております。当大船渡警察署管内でも冬休み中だけでも児童生徒の非行が33件もあったと発表されております。

また経済成長による労働不足は「婦人労働者」の増加と言う現象を起しました。これは国民生活の水準が高くなればなるほど盛んになると言う事で、先進国の例でもはっきりしております。

この事は当然「ママさん労働者」問題を起しました。私共が市内各小学校六年生を対象に行いましたアンケート調査にもはっきりあらわれております。この調査によりますと給与所得者の児童の内41%の親が共稼ぎをしているという事です。逆に言いますと41%の児童が「カギッ子」だということです。

この事によって子供に影響が及んでるのではないかが心配されます。

例えば今日のマスコミの青少年に与える影響の問題が言われておりますが私共の調査によりますと一日に児童のテレビを見る時間の多いのに驚きました。皆さん何時間位だと思いますか。実に一日平均四時間強と言う答えが出ました。しかもNHK一時間、民間放送三時間となっております。

つい母親が居ない淋しさからテレビでもと言う事もふと考えられます。またこの共稼ぎの問題は保育所、託児所不足の問題に発展して来ます。当市でも最近保育所、託児所の絶対数の不足が婦人労働者の最大の悩みとなっておる様で、一部「甘竹ブロイラー」さん等では会社の附属託児所を設置し急場をしのいでおられる様ですが、これなども市が産業の発展を願うならばこの間願にもっと真剣に取りくむべきではないでしょうか。また産業の発展だけが青少年問題を誘発しておるのではなく、家庭の面から見ましても言えると思います。戦後の家族制度の改革により大家族制度から核家族と変りそれが家庭機能の縮小と喪失を生み、親達のまちがった自由主義が放任主義となったりし、また各人が個人を主張する等の事で家庭が孤立化して来るから家族間のコミュニケーションがうまく行かず、親子関係が疎外されて行きます。

この結果、戦前は経済状態の悪い家庭に非行の子供が多かった様ですが、最近では中流家庭のしかも両親健在の家庭からも非行の子供が多くなって来ておると言われ、これは前にのべた「共稼ぎ」の問題とも関連して来るものと思われまます。この様に青少年問題の根本は深く広範に及んでおるのではないのでしょうか。したがって各行政間は総合的に一貫性がなければいけないと思います。国の段階では「総理府」県段階では「青少年対策局」と一応組織は出来ておりますが「末端」の市町村サイドではその点少し組織が弱い様に見受けられます。

最後に私が考えますのはこの重大な青少年問題を解決する近道はまず一般市民は心からの愛情を青少年達に送る事、そして行政当局は勇気を持ってより多くの財政と情熱も投資する事が一番ではないだろうかということです。

質 問

一、商工会議所会頭殿

産業の発展により当市でも勤労者少年が急増して居りますが、その人々の育成指導の構想と婦人労働者の増加により、俗に言う「カギッ子」対策としての託児所等の不足の問題をどうお思いになって居りますか、また産業人として見た青少年問題についてお話し願いたい。

二、教育長殿

勤労青少年問題と言うと今迄は主に青年会を対象にして居られた様に見受けられますが青少年の多い盛、大船渡両町には青年会は消滅しまして、青少年の多いサークル活動も細分化しますが、これら青年のサークル活動、スポーツ活動の育成指導のお考えと集会所、スポーツの場等の問題をどの様にお考えか、また教育長として青少年の問題をどの様にお考えか。

三、警察署長殿

先日の発表によりますと、管内の冬休み中の児童、生徒の非行が減少したとの事でしたが、それ

でも冬休み中だけでも 33 件もあったとの事です。非行防止の対策はどの様になって居りますか。また警察から見た青少年の問題点をお話し願いたい。

四、市長殿

市当局は、これからの青少年問題の対策をどの様にお進めになるか。文具体的には勤労青少年に絶対必要な集会所やスポーツの場所の早期設置の考えは無いのか。また労働力不足により当市でも婦人労働者が多くなりつつあるが、これらの婦人の悩みの託児所、保育所の不足の問題はどの様にお考えか。それから昨年勤労青少年の育成にどれほどの予算をお使いになったか、お話し願いたい。

司会 カギッ子の問題、託児所問題について会頭さんのお考えを。

鳥沢 カギッ子問題が起るのは日本に宗教がないということ。これは根本的に社会観、人生観・宇宙観ともつながる（笑）ちょっと抽象的すぎてピンと来ませんのでもう少し具体的にお願いします。

甘竹 問題の本質とはかけ離れるかもしれないが、皆さんに意見を申したい。50～80歳の層は優等生的に物を考えるのは当然です。しかし30代までは円満に物事を考えようというのは間違いです。ある程度の矛盾、自家どう着は覚悟しなければならないと思う。カギッ子にしても託児所にしても政治や行政に頼る経済を考えていくのはどういうものかと思う。会頭などもおそらく円満な考え方で仕事をしてきたわけではない（笑）

志田 ご両人の意見には同感の点もあるが社教委員の一人として勤労青少年や婦人労働者の急増、カギッ子の問題等は両親の良識による判断の内のことであり、中小企業等には及ばぬ面でもあるので社会教育の立ち場から捉えてみたいと思います。市の教育予算1億円のうち、社教費は1323万円で、公民館費は164万円に過ぎない。やはりもっと多くの予算を盛ることが必要であると思う。

司会 青少年のサークル活動、スポーツの場や指導はどうなっていますか。

渡辺 青少年活動は中央公民館―地区公民館―部落公民館を通じて指導していますが、職業の多様化により、青年学級等の数も減ってきており、盛・大船渡には青年団の組織もないのが現状です。従ってサークル活動、中でも音楽が中心となっています。そのうち7団体は中央公民館が直接タッチしていますが、これからは出来得るなら地区公民館に専任の主事をおいて地域と密接した活動をとりたい。つどいの場としては、末崎市営球場があるだけなので、現在、市役所の議会棟を移転させて体育館にでも開放する考えもあります。また各地区の広場などを活用して、小運動場にするとかも老えています。市民講座は好評なので拡充していきたい。

会場の皆さまから

E（男性） 青年会誘所が青年会を指導するのか、あるいは溶け合っていくのか、また青年会議所に入っていない青年を指導していくのか、それともまったく関係がないというのか。

菅野 地域の人々と融和していくのが我々の本分です。入会したい人があれば喜んでいれますし、もしそれができなかつた場合でも、色々力を尽していく考えです。

F（女性） 青少年問題も学校教育、社会教育、家庭教育が根幹をなすものです。家庭教育の面から

みますと、確かに婦人の労働は多くなっている。このため夜の学習などを持っても人が集まらず、婦人団体としても苦勞している。一方、家庭での母と子のつき合いはある程度疎遠な部分が出て来ると思う。だから私は愛の一声をかけてほしいと思う。潤しに富んだ生活がありながら、働いて一銭でも多くとろうという通念が強くなっている。しかしこれでは経済面ではプラスになっても精神面ではマイナスの作用も多いと思う。

司会 終りに総まとめを三条先生にお願いします。

三条 自信を持っていないということは生きていく哲学を持たないということだと思います。さっき会頭が「日本人には宗教がない」とおっしゃったが、宗教はまた生きるための一つの哲学であると思います。今日の市民会議は第1回目の持ち方として問題提起が主だったように思いますが、質問の出し方があまり具体的すぎてかえって大きな問題を見逃してしまったのではないかと、そんな感じがしました。

菅野 70年代の教育方法論についてお伺します。やはりこうして歴史なり各世代なりに接してみると明治生れの人には明治の、昭和生れにしても戦前、戦中、戦後のそれぞれの時代の性格を持った人格形成がなされているように思われますがこれはそれぞれ時代の教育の然らしめるところと考えます。それについて70年代の教育のあるべき姿についてひとことお願いします。

渡辺 70年代は経済成長に伴い、物質文明もますます高度化すると思いますが、しかしこれまでを振り返ってみるとある程度物質文明というものを踏まえながらも敬けんな心を養うという点が薄かったように思えます。これまでの教育は権利の主張を確立したということで、それなりに評価は与えられ然るべきですが、半面、底に流れる人間愛というものが薄弱で、一次的なものが表に出たきらいがなかったわけではありません。しかし、これからは人間形成というものを心に据えて、物質と精神の共存を図っていくことが大事だとい思います。指導上の方法からは個人別指導というものが重要視され、特性能力に応じた教育、個人の能力開発とともに新しい人間関係の模索が問われるでしょう。教育の機会均等もお題目ではなく、本腰を入れる必要があります。もちろん施設も重要であり、そうでないと機会均等もなかなか実現できないと思います。教育する側にも変革は求められるでしょう。それはサラリーマン教師から脱皮し、文字どおりの教育者となることです。それには教師自体を豊かにしてやらなければなりません。遅れている社会教育にしても然りで、社会教育課を独立させる時に来ました。学校教育と社会教育は車の両輪であり、この二つが円滑に回ってはじめて教育という車は動くのです。